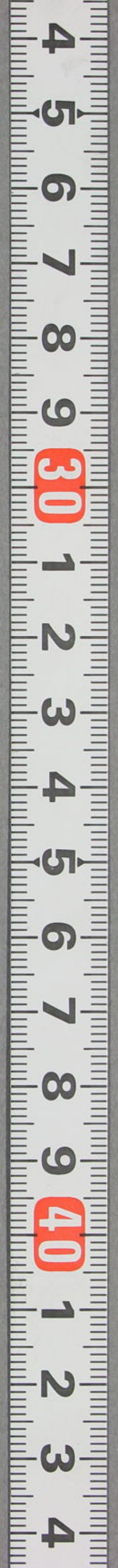


万亭應賀作

外題西王母圖

上

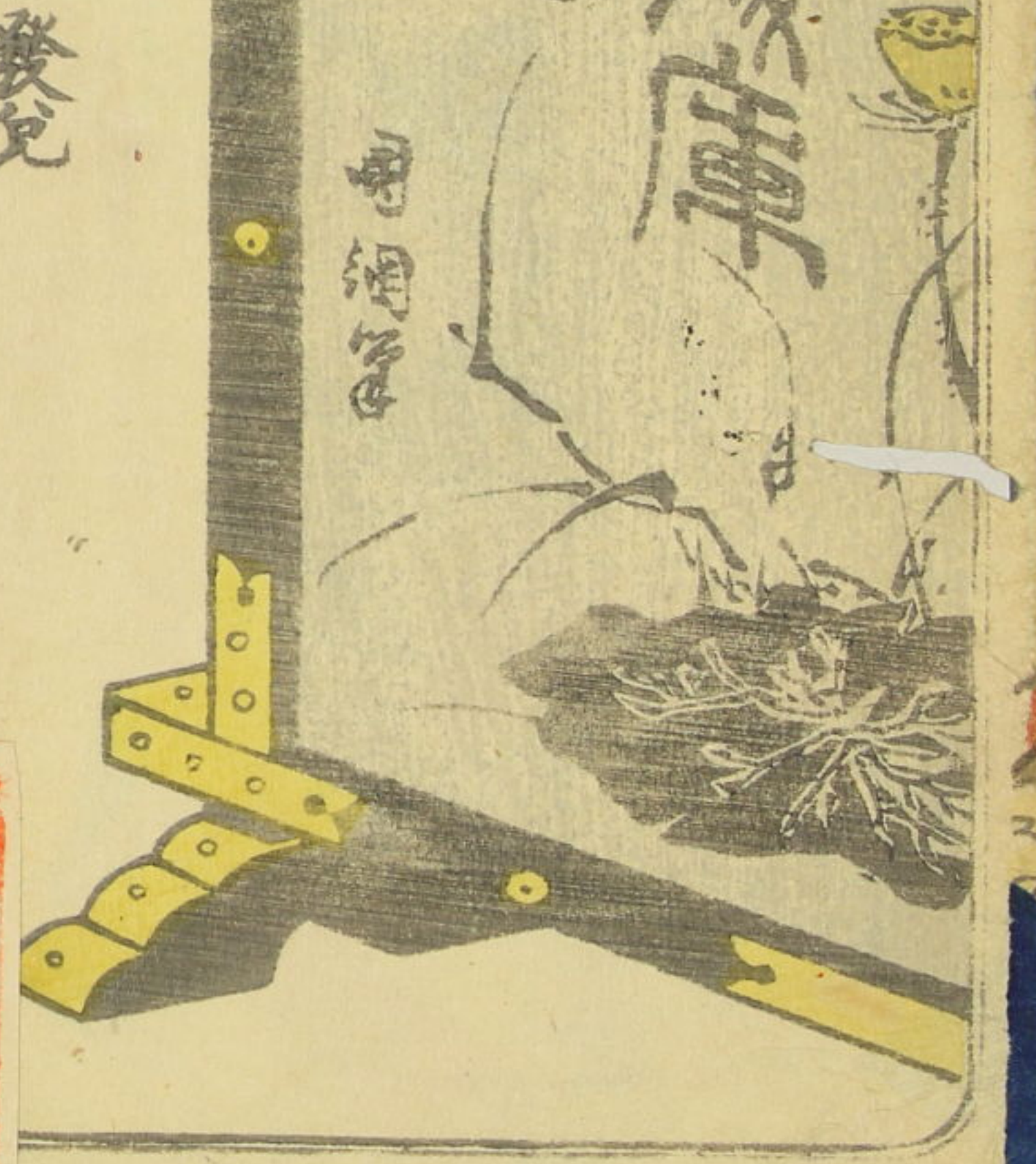
^ 13  
3387  
8



13  
3387  
8

釋迦八相倭文庫

三教新編



丙辰春發兌

万亭應賀作

歌川國貞画

江戸人形町通

上州屋重正

昭永十八年  
三月二日故  
小田壽吉氏  
長男友左郎  
氏寄贈

卍

釋迦八相倭文庫三拾五編序

卍

夫一心三相あり本覚不覚始覚の三也本覚ハ池水澄湛として濁浪を如く  
不覚ハ風塵雲氣の縁ありて浪立濁凍が如く始覚ハ日温めて凍解して水澄が如  
く清濁の水殊れども只一水也迷悟真妄異れども唯一心也されば可難阿  
難の色欲も即菩提の種と多く直不如来の戒を受えども戒ハ僧俗とも不持  
まの良禁されば口小苦くとも棄てざる昔波羅奈國小屠兒あり 釋迦の毛名  
と廣額と号して日々に羊と殺と其教を知む時小舍利弗彼小向て一日夜の  
戒と授けい因小依て命終の後毗沙門天王の子と生りと久又人小成らと思  
は先善人小成ら善人小成らと云ふ戒を持べし此語誠成仏の近道  
これハ毗沙門道を直直小誰も行べしと云ふ云

安政三丙辰年正月吉日發行

卍六

万亭應賀誌

卍

寶無妙德佛

利劔の名号弘法大師の筆  
 真物京都百万遍知恩寺に有



毘沙門天王



五五尊の第七  
 師子吼菩薩  
 能作性の  
 玉のて  
 獅子王の劔  
 制衣る

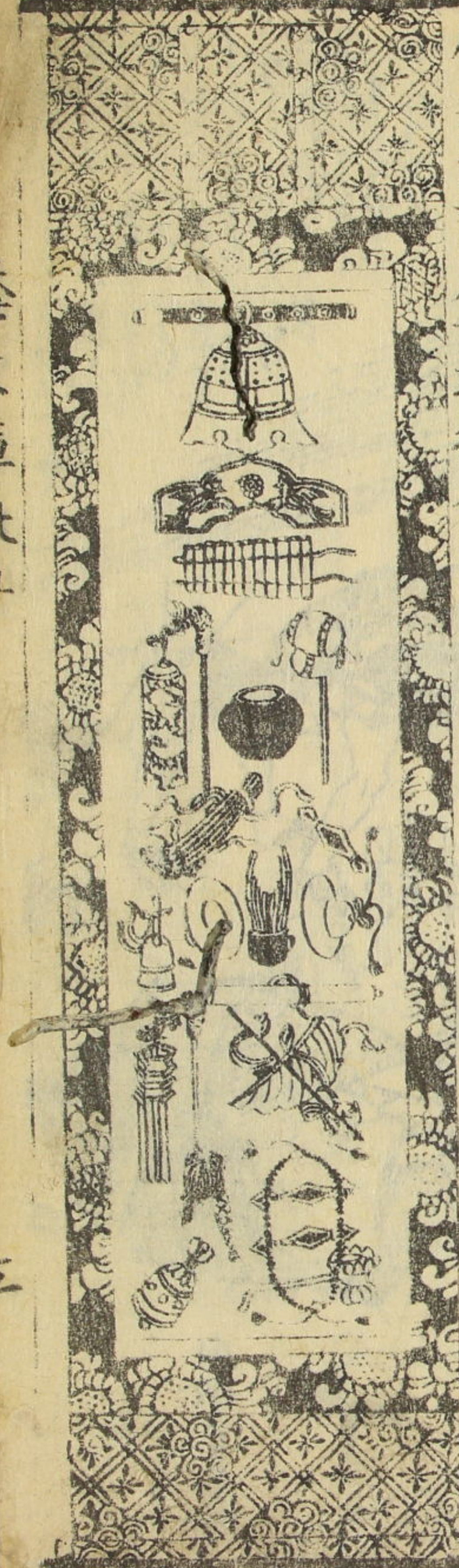
小巻の巻  
 五五尊  
 師子吼  
 菩薩  
 能作性の  
 玉のて  
 獅子王の劔  
 制衣る



番匠道具の名号 聖徳太子の華真物大坂天王寺小あり

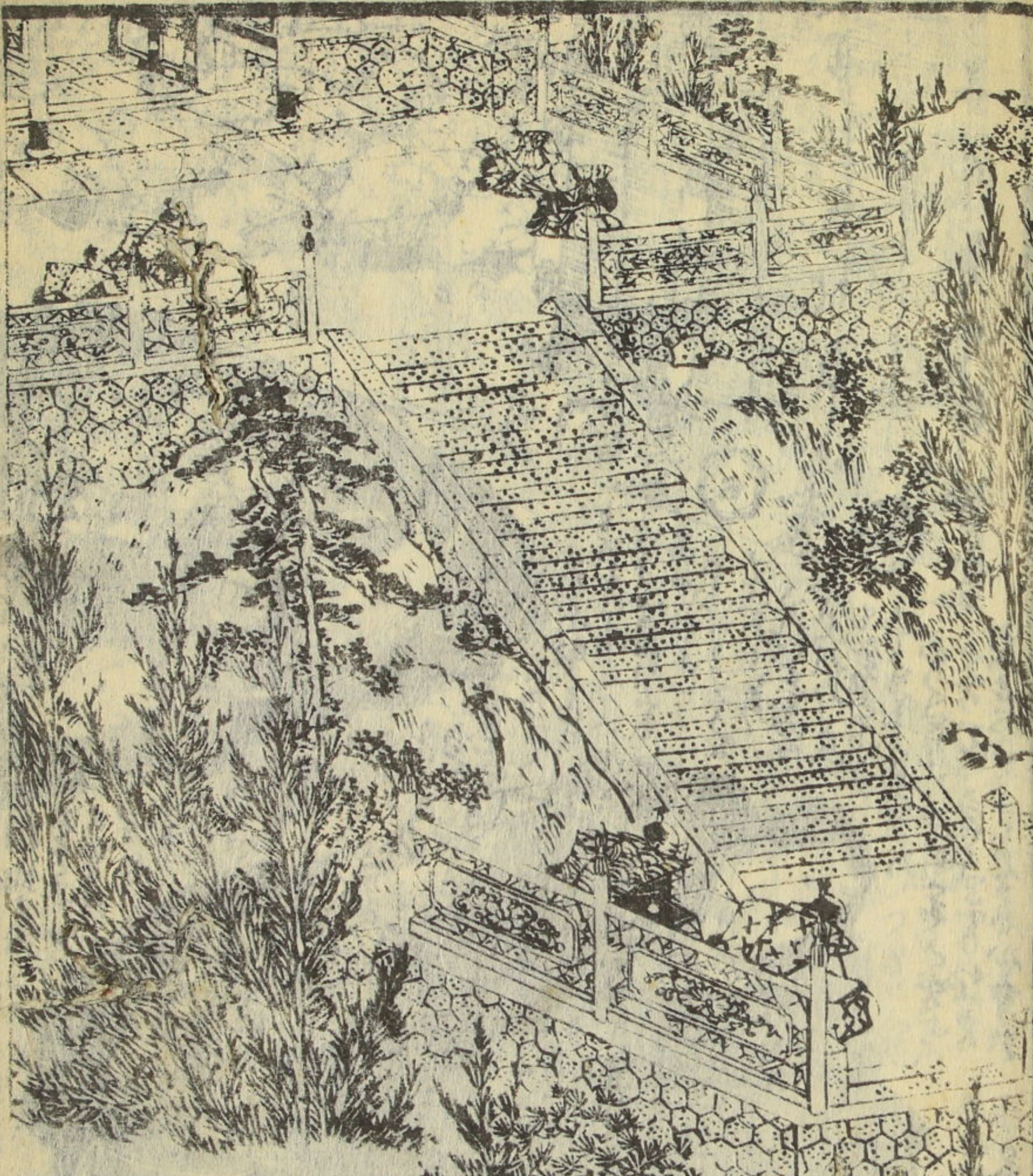
# 夷舞秘傳

佛具楽器の名号 聖徳太子の華真物大坂天王寺小あり





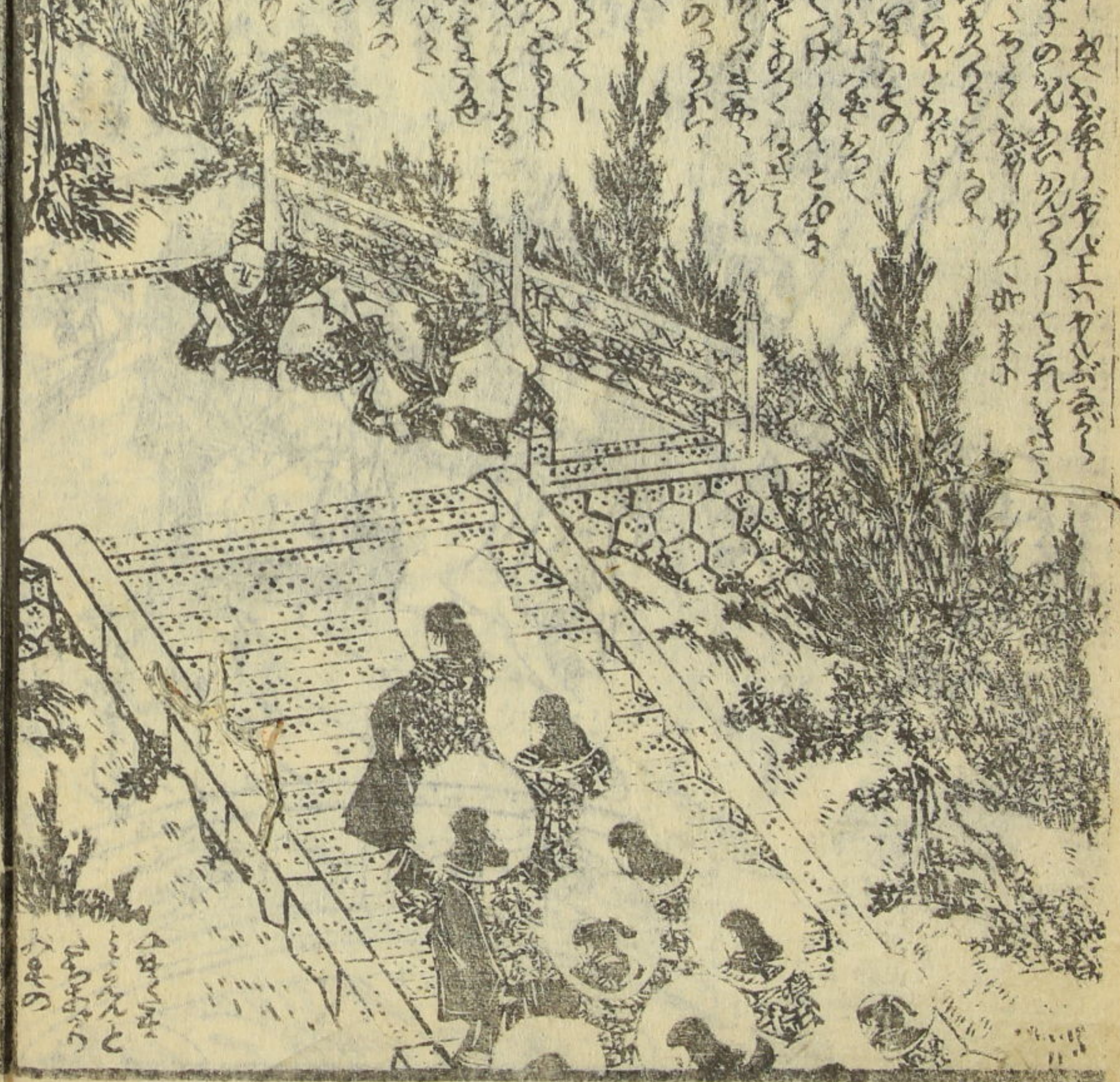




此の如き石段は  
 昔よりあるに  
 けりまよふ所の  
 ひとも千五百  
 のりともあり  
 とるたぐひの  
 身はあつて  
 りんごの  
 ありて  
 世に  
 の十二  
 なる

木  
 五  
 丈  
 五  
 十  
 九

此の如き石段は  
 昔よりあるに  
 けりまよふ所の  
 ひとも千五百  
 のりともあり  
 とるたぐひの  
 身はあつて  
 りんごの  
 ありて  
 世に  
 の十二  
 なる



此の如き石段は  
 昔よりあるに  
 けりまよふ所の  
 ひとも千五百  
 のりともあり  
 とるたぐひの  
 身はあつて  
 りんごの  
 ありて  
 世に  
 の十二  
 なる





この世のついでに... 人の心は... 世のついでに... 人の心は... 世のついでに... 人の心は...



おのれ... 世のついでに... 人の心は... 世のついでに... 人の心は...



おのれ... 世のついでに... 人の心は... 世のついでに... 人の心は...

この世のついでに... 人の心は... 世のついでに... 人の心は... 世のついでに... 人の心は...









應賀作國貞画

我本因地以念仙心  
入無生思  
今於此現  
攝念仙人歸於淨土

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

倭文庫出世双六

應賀作 春の遊 將棊双六 同作 貞房画 豊国画

男女 役替 双六

同作 同画 武家奉公出世双六 同作 豊国画

奥奉公出世双六

同作 子寶延命袋 同作 同画 紅摺全一冊

重榮御江戸繪圖

大寶御江戸繪圖

奉書四枚半つた

極上摺奉書六枚半續

歌川國貞画

倭文庫三拾五編

安政三

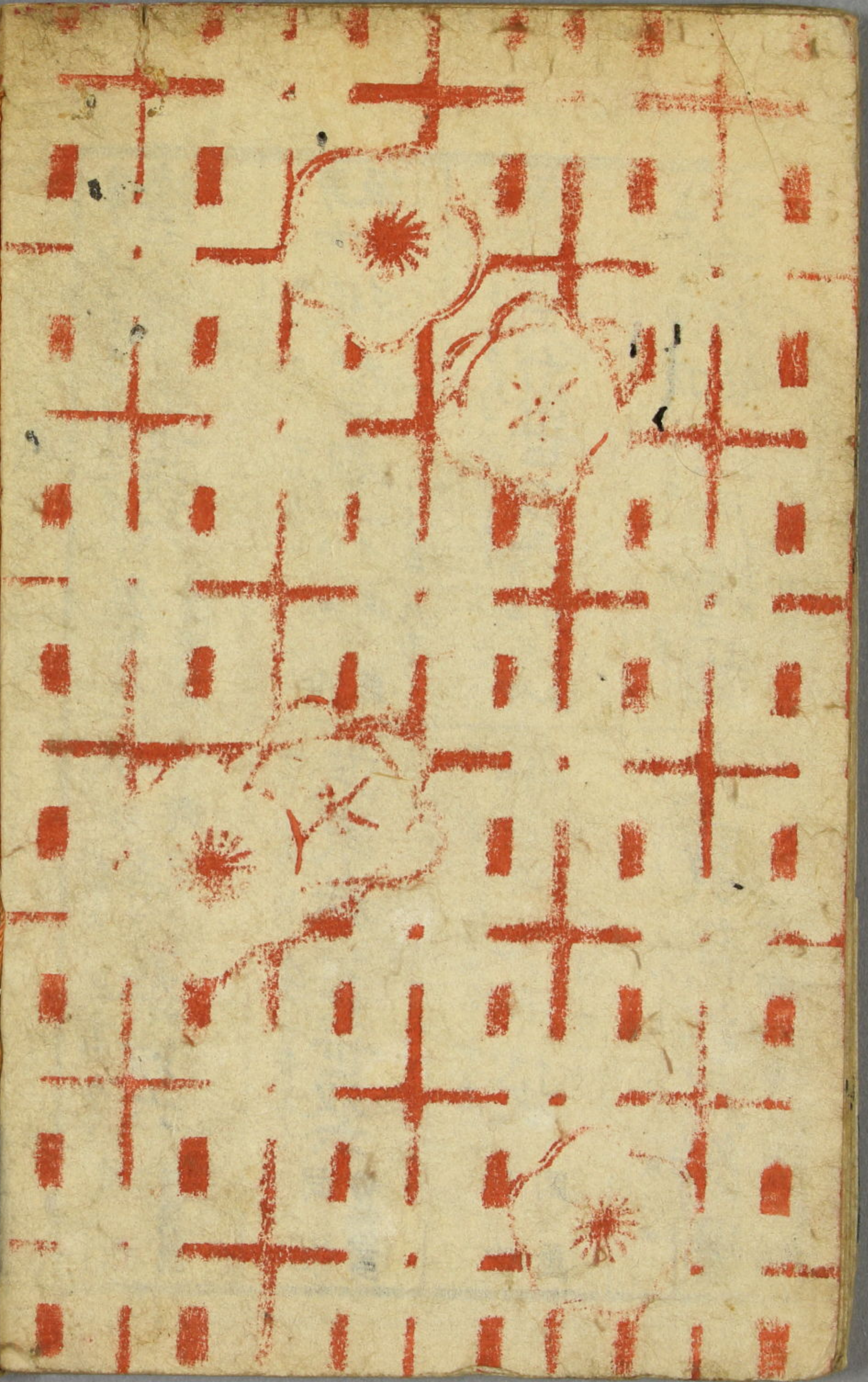
丙辰年

孟陽新刊



下

錦重



六三

後文庫三條御

應賀化

玉貞画

板上重

The illustration depicts a man in traditional Japanese court attire (kariginu), seated and holding a long staff or bow. He is surrounded by a dense field of handwritten text in cursive kanji (sōsho). Above the illustration, there are three circular seals or stamps. The text appears to be commentary or a narrative related to the figure and the title '後文庫三條御'.

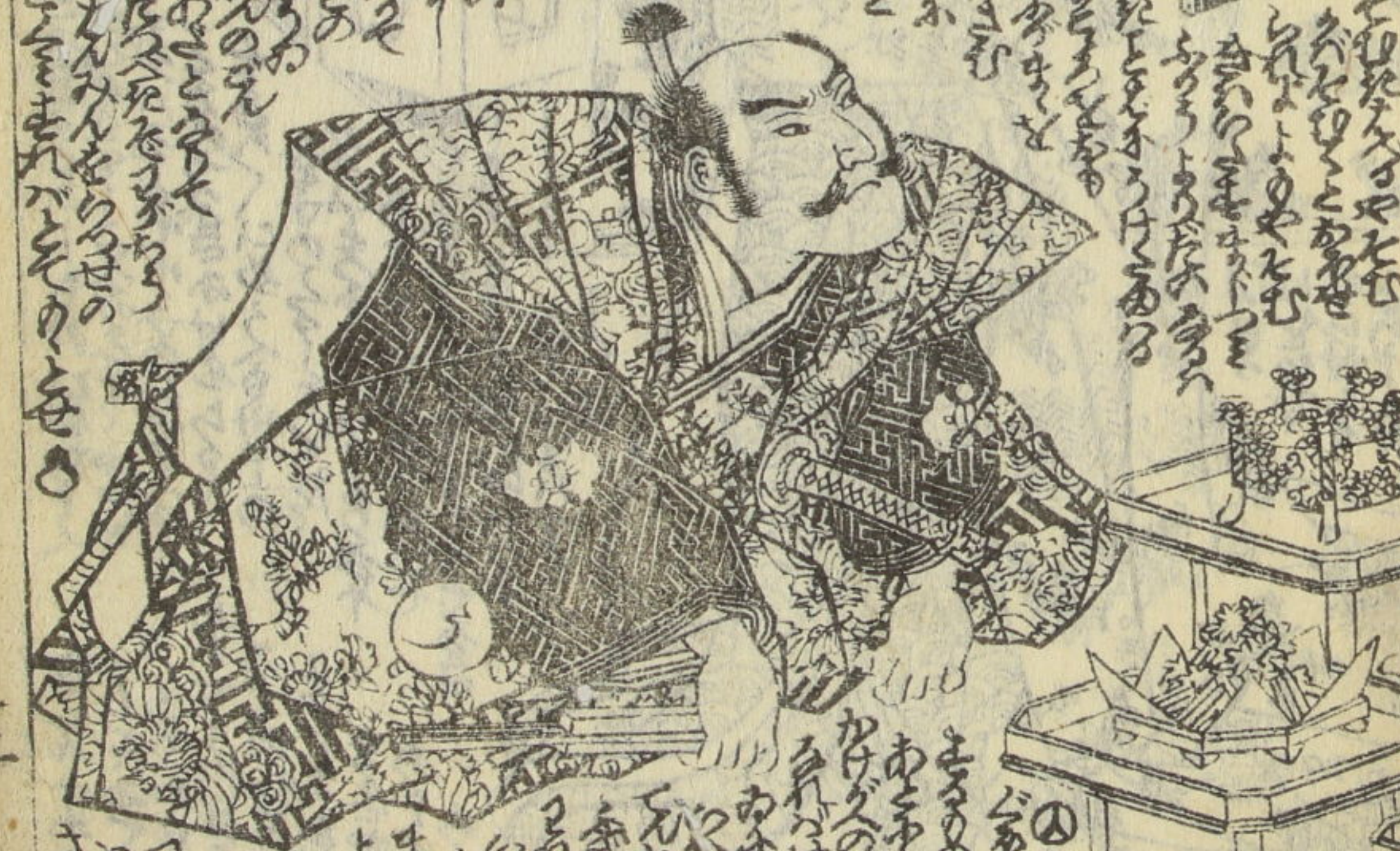
あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...



あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...

あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...

あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...



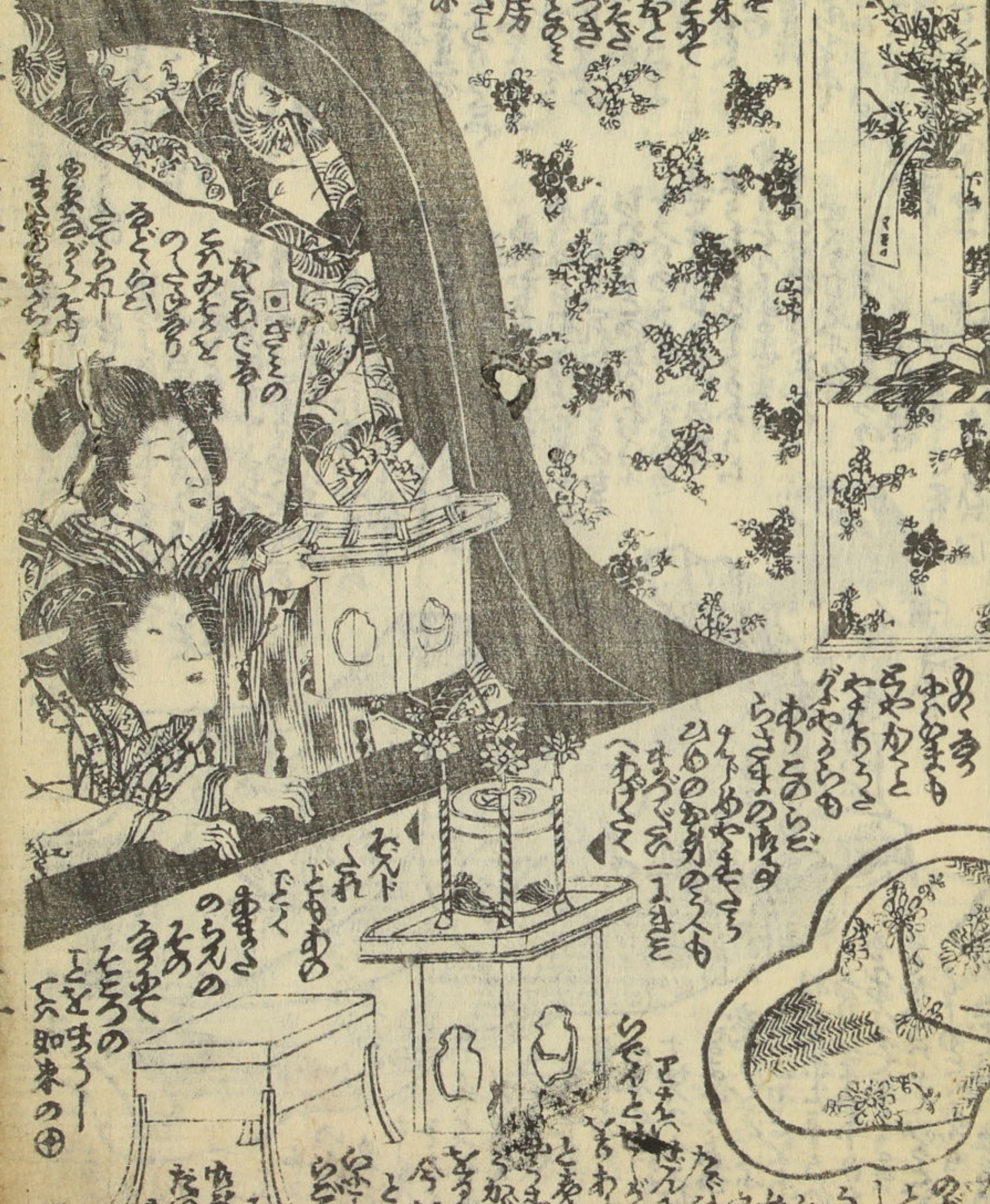
あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...  
 あつちからしたる...

一、梅文屋の主人は、  
 梅の香りを好むので、  
 庭に梅を植ゑ、  
 春になると、  
 梅の花が咲くと、  
 梅文屋の主人は、  
 梅の香りを、  
 鼻でかぎ、  
 梅の香りを、  
 心で感じる。



梅の香りを、  
 鼻でかぎ、  
 梅の香りを、  
 心で感じる。

二、梅文屋の主人は、  
 梅の香りを好むので、  
 庭に梅を植ゑ、  
 春になると、  
 梅の花が咲くと、  
 梅文屋の主人は、  
 梅の香りを、  
 鼻でかぎ、  
 梅の香りを、  
 心で感じる。

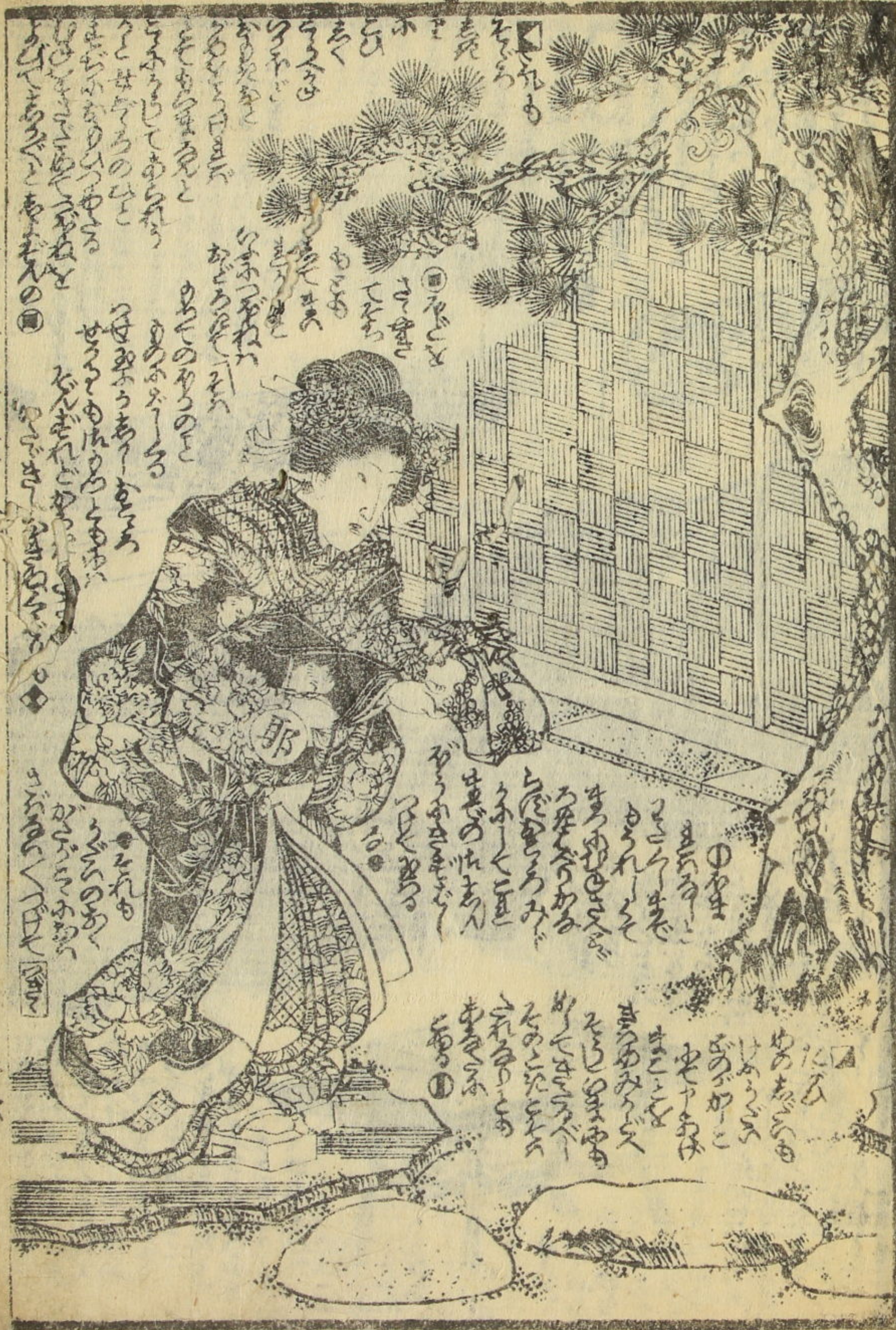


梅の香りを、  
 鼻でかぎ、  
 梅の香りを、  
 心で感じる。

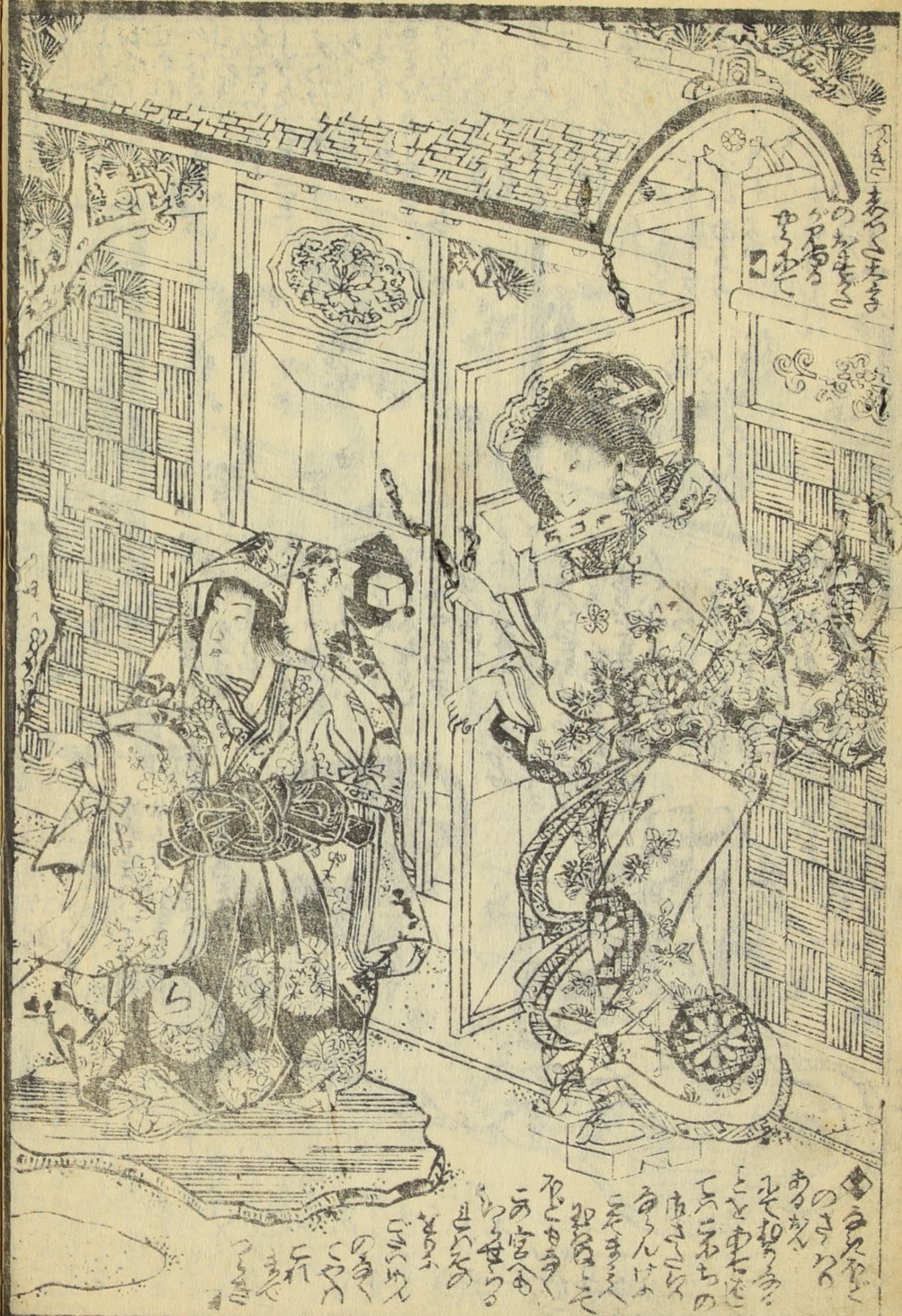








木下 文庫 廿五

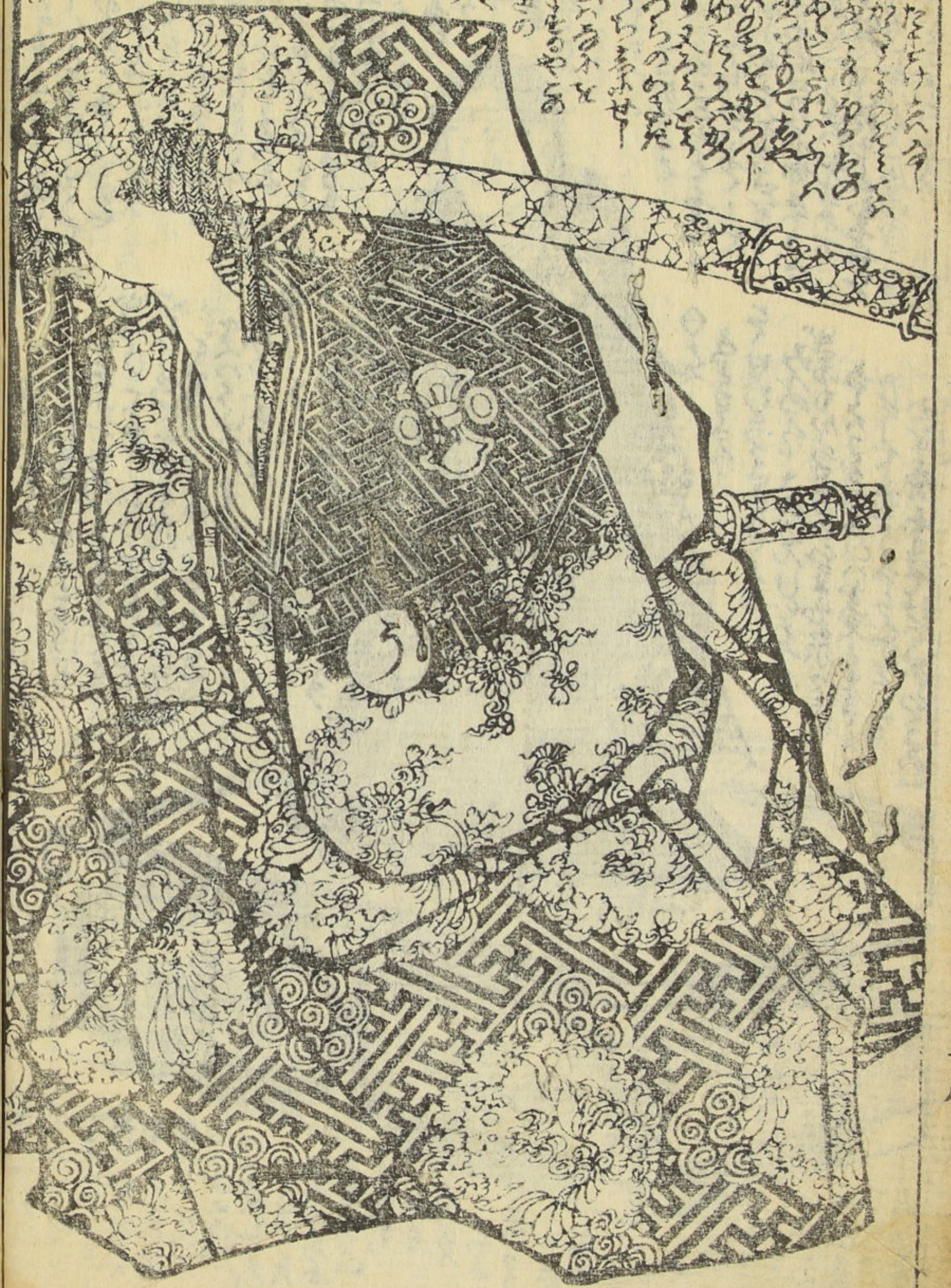


木下 文庫 廿五





伊勢物語  
第一  
ふゆかきしわたる



伊勢物語  
第二

伊勢物語  
第三



伊勢物語  
第四



文久三年癸亥新春新目録

重繪草紙本類問屋 人形町屋重藏板

常磐津懷中本

初編二編 小なみりき付  
三編四編 あり極上取あり

花山吹百人女郎 初編二編

沙予みゆの 五編六尾

重井菱漆別小紋 八編大尾

昔語小栗實説 二編三編

倭文庫

五十編五十二編 万亭應賀作  
五十三編五十四編 一陽齋豊國画

万亭應賀作の歌劇國貞画



倭文庫



